

浅草再訪

Y. M

副題：若かりし頃の想いで！！

浅草に通い始めたのは、大学の頃、1960年代半ばから、慣れぬ浴衣を着て、朝顔市を見物したり、突然、永井荷風を読み始めたりしておりました。

ストリップ劇場では60年代初に関西から来襲した、ヌード・ショウに押され、既に、踊り子と踊り子の間のコトは姿を消し、ストリップ嬢の踊りだけだったと記憶しております。

ビートたけしが浅草フランス座に現れコトの修行に励んだのが1973年なので、この辺り、記憶と歴史が錯綜して混乱してます。

サラリーマン時代も時間があると、フラリ、神谷バーを訪ね、お手頃なつまみと電気ブランで酔いしれたものです。一人で入っても隣席の人との会話はスムーズに始まり、お互いに二度と会う事もないのを承知で『じゃ・また』と別れる。

浅草のウエットでもあり、ドライでもある処が居心地が良いのです。

教室では、桜の咲くころ、クルーズで墨堤を上り！！冬まじかには、気の早いクリスマスが開かれ、懐かしい浅草と良い再開しています。

